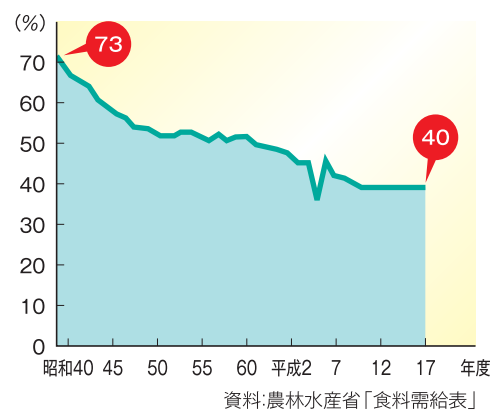


海外に大きく依存しているわが国の食料事情

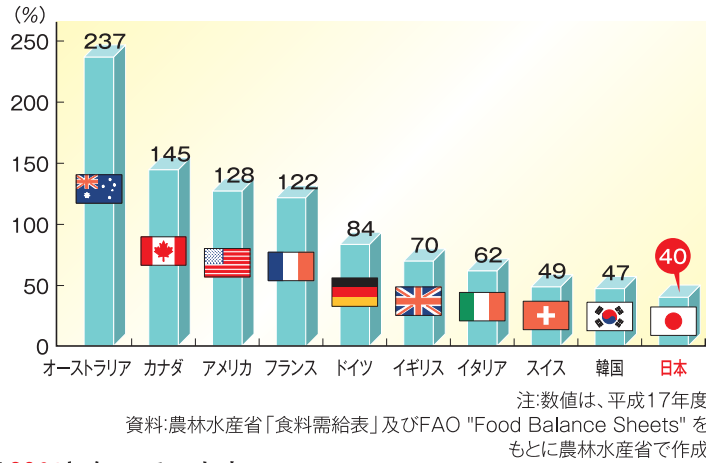
食料自給率は主要先進国の中で最低水準のわずか40%

わが国のカロリーベースの食料自給率は、昭和40年度には73%ありましたが、食生活の変化に伴い年々低下しており、現在は40%となっています。この数字は、主な先進国の中でも最も低い水準になっています。

食料自給率の推移(カロリーベース)



わが国の食料自給率は主要先進国の中で最低水準

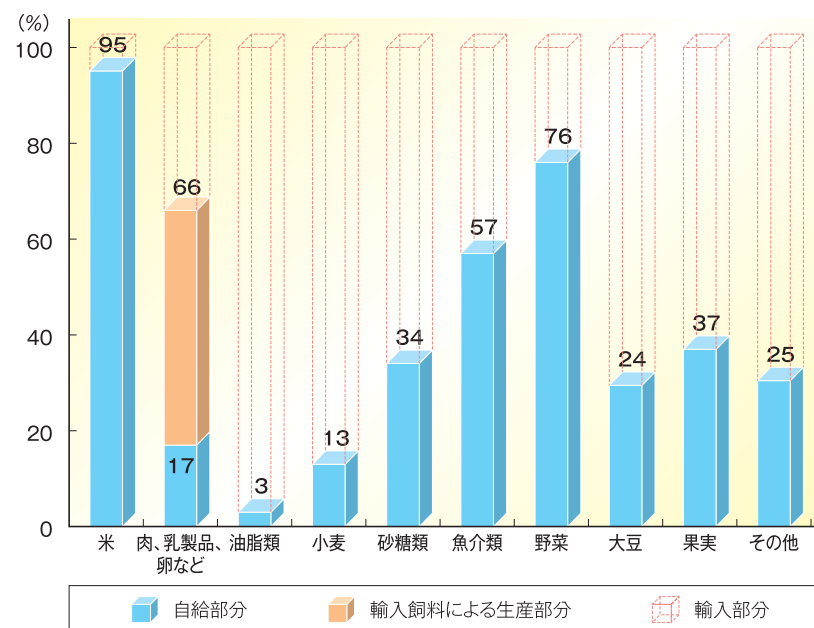


※最新のデータでは、平成18年度の食料自給率は39%となっています。

米、野菜、魚介類以外の食料のほとんどを海外に依存しています

カロリーベースの品目別食料自給率は、米が95%、野菜76%、魚介類57%であり、国内生産で50%以上をまかっていますが、その他の食料は、小麦が13%、古くからある納豆やみそ汁の材料である大豆が24%となっているなど、大部分を輸入に依存しています。なお、肉、乳製品などの畜産物は66%ですが、輸入飼料による生産分を除くとわずか17%になっています。

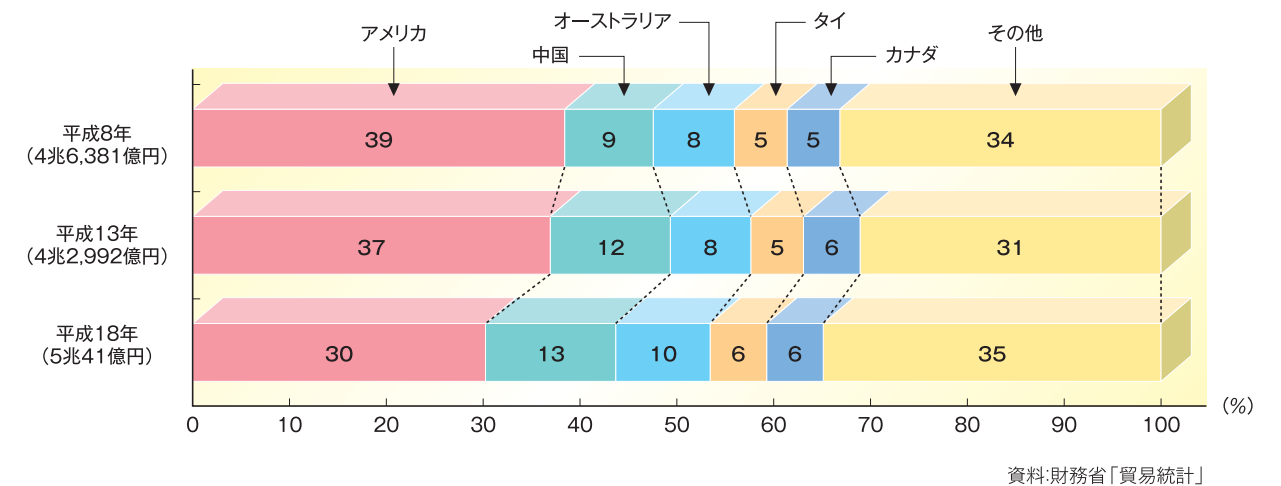
主な食料の自給率(カロリーベース:平成17年度)



特定国からの輸入が多く、一部の国における気象災害等の影響を受けやすくなっています

わが国の農産物の輸入は、特定の国への依存が高く、アメリカ、中国、オーストラリアなど上位5カ国で6割強を占めています。このため、わが国の食料供給は、これらの国の作柄、作付の変動などによって影響を受けやすいという問題を抱えています。

わが国の農産物輸入の相手先の割合



国民の約8割がわが国の将来の食料供給に不安を抱いています

内閣府が実施している「食料の供給に関する世論調査」によると、将来の食料供給に不安を抱いている人の割合はやや増加する傾向にあり、最近では約8割に達しています。

わが国の将来の食料供給に関する調査結果

